



HEALTHY SIGHT

n e w s l e t t e r

より良い視覚をお客さまに

Vol.3

「眼の成人病とは何か」を知る

井上 治郎氏(井上眼科病院理事長)

chapter 1

3つに大別される眼の成人病

一般に成人病（生活習慣病）というと、高血圧症、糖尿病、高脂血症（脂質代謝異常症）、痛風（高尿酸血症）などの慢性疾患のことをいいます。いずれも、年齢が高くなること（加齢）と、生活習慣が発病の原因と考えられています。眼にも同じように、「成人病」があります。

眼は、光や色や形を感知する感覚器官で、人体の感覚の80％は眼を通して入ってくるといわれています。したがって、最も大切な感覚器官であり、その機能が働かなくなると、日々の生活に重大な影響を与えることになります。

成人病（生活習慣病）は、早期発見、早期治療が重要です。眼の成人病についても早期発見、早期治療が重要であり、そのためには、一人ひとりが眼に関心を持って、手遅れにならないようにしなければなりません。

この「眼の成人病」は、その特徴から、大きく3つに分けられます。

1つ目は、誰でもかかる病気ですが、治療法が確立されている病気です。これには、老視（老眼）と白内障があります。

2つ目は、病気になっても、早期発見、早期治療によって、進行を食い止めることができるものです。緑内障、糖尿病網膜症、網膜剥離の3つの病気が、これに該当します。

3つ目は、早期発見しても、病気の最初に網膜の中心部がおかされるため、残念ながら視力回復が難しい病気です。これには、加齢黄斑変性と網膜血管閉塞症があります。

これから、それぞれの病気について、症例写真を示しながら説明していきます。

chapter 2

治療法が確立した老眼と白内障

まず、誰でもかかるけれど、治療法が確立している、老眼と白内障についてです。

人口の高齢化が進み、老眼になっている方が増えてきています。老眼は、加齢によって調節力が低下するために起こる異常で、遠いところ、近いところに自由にピントを合わせられなくなる病気です。これは老眼鏡をかけることによって、解決することができます。

白内障は、加齢によって水晶体が濁り、視力が低下する病気です。誰でも年を取れば、多かれ少なかれ、症状がある病気だと思います。最初は、瞳孔が濁り、これを放置しておくと、瞳全体が白くなってしまいます。

しかし、手術によって濁った水晶体を取り除き、代わりに眼内レンズを入れることで、視力を回復させることができます。

眼の成人病で治りうるのが、この2つです。

白内障

加齢により、水晶体が混濁してきて視力が低下してくる。手術により水晶体を除去し、眼内レンズを挿入することで、視力を回復させることができる。

chapter 3

早期発見・治療が重要な3疾患

次に、早期発見、早期治療で疾患を食い止めることができる、緑内障、糖尿病網膜症、網膜剥離の3つの病気について説明します。

緑内障は、眼の中の圧力（眼圧）の上昇により、視神経が圧迫されて損傷し、視野が異常となってくる病気です。早期に発見し、点眼薬などで眼圧をコントロールすることによって、進行を防止することが可能です。しかし、自覚症状がないために、放置されることが多く、知らぬ間に進行してしまう病気でもあり、現在、大きな問題となっています。現在、日本では正常眼圧緑内障という眼圧は正常範囲ですが、視野が悪くなるものが増えていきます。

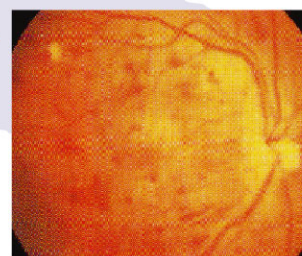
糖尿病網膜症は、全身疾患である糖尿病の合併症として起きる網膜血管の障害です。早期に糖尿病をコントロールすることで、網膜血管からの出血の進行を食い止めることが可能です。しかし、進行すると失明してしまうという怖い病気です。

糖尿病網膜症の初期は、小さなパラパラとした出血があります。しかし、糖尿病を放置しておくと、だんだんと出血する箇所が増加し、増殖膜というものが形成され、最後は増殖網膜症となって失明してしまいます。

糖尿病網膜症（単純型初期）



糖尿病網膜症（増殖型初期）



網膜剥離は、網膜に穴があき、その穴を通して網膜の下に硝子体液（眼の内部を満たしているゼリー状のもの）が入り、はがれてくる病気です。加齢による後部硝子体剥離による飛蚊症に続いて発症する病気です。したがって、飛蚊症を自覚し、すぐに医師の診察を受け、早期にレーザー治療をすれば、進行を予防できる病気です。

写真で、網膜の赤くなっている部分が網膜の穴です。下の写真では、白い部分が網膜のはがれている部分で、赤い部分が網膜がついている部分です。このようになってくるのが網膜剥離です。

網膜剥離（大きい裂孔）



網膜剥離 （右下の白い部分が剥離）

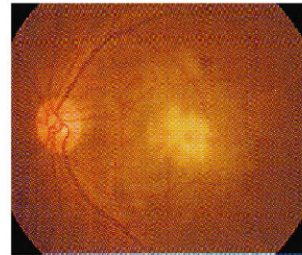
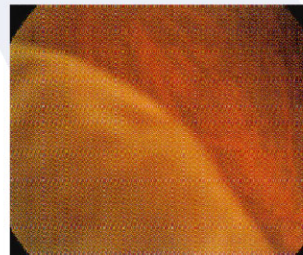


写真1) 加齢黄斑変性（初期）

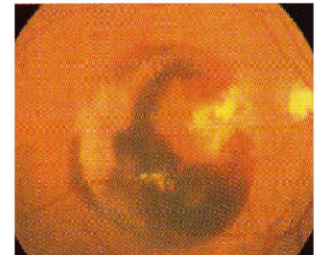


写真2) 加齢黄斑変性（出血期）

網膜血管閉塞症は、網膜に分布している動脈や静脈が急に閉塞して、網膜に虚血（血液が流れない状態）や出血が起こる病気です。これも、黄斑部が関与していることが多いので、急に視力が低下します。一度黄斑部がおかされると、視力の回復が難しい病気です。

写真3は、網膜血管閉塞症のうち、動脈が閉塞する網膜中心動脈閉塞症です。中心動脈が閉塞するため、赤色だった網膜が、黄色くなって腫れてきます。写真4は、網膜中心静脈分岐閉塞症の症例です。赤いところが出血している箇所です。写真5のように、網膜中心静脈閉塞症が起こると、大出血を起こしてしまいます。いずれも、視力の回復は難しいのです。

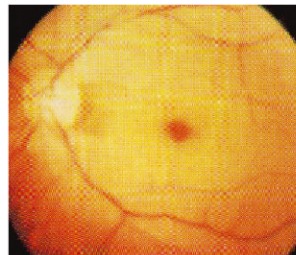


写真3) 網膜中心動脈閉塞症

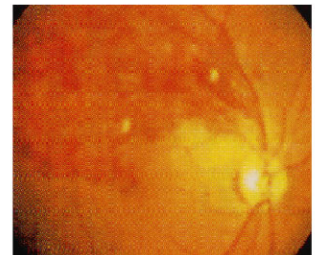


写真4) 網膜中心静脈分岐閉塞症

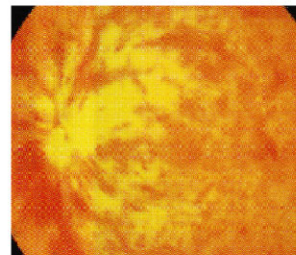


写真5) 網膜中心静脈閉塞症

以上、眼の成人病の概略を説明しました。我々眼科医が外来で診察を行っている、このような患者さんが大勢来られます。治療に困難を感じることも多く、もう少し早く来てもらえば、と毎日のように思っています。眼の成人病について、多くの人にもっと知ってほしいと願っています。

chapter 4

視力回復が難しい病気も

最後に、早期に発見しても、病気の初めに網膜の黄斑部（眼底の中心部）がおかされるために、視力回復が困難な疾患として、加齢黄斑変性と網膜血管閉塞症を取り上げます。

加齢黄斑変性は、今、マスメディアなどでも話題になっています。加齢によって網膜黄斑部の細胞に障害が起こり、視力が低下してくる疾患で、滲出性と萎縮性に分けられます。新しい治療法がいろいろ開発されつつありますが、視力の回復は難しいのが現状です。超高齢者に多い病気のため、超高齢者が増えるにつれて、患者さんも著しく増加しています。アメリカでは中途失明の第1位です。日本でも治りにくい病気であるため、大きな問題になっています。

写真1のほぼ中央の部分を、黄斑部といいます。文字通り、黄色くなっています。これは初期ですが、やがてこの部分が出血すると、写真2のようになってきます。